

IV. 研究成果の刊行物・別刷

【特集】
いまの高校生が
わかりますか？

SPECIAL
EDITION

特集論文 ④

不安と危機感——高校生の 職業意識

佐藤 香 (東京大学社会科学研究所助教授)

はじめに

「学校基本調査」によれば、二〇〇四年三月高校卒業生では、大学等への進学率が四五・三%、専門学校進学率一九・二%であるのに対して、就職率は一六・九%であった。一九九四年三月卒業生では大学等進学三六・一%、就職二七・七%、専門学校進学一六・六%であり、この十年で専門学校進学と就職とが逆転したことがわかる。この背景には、社会的なシステムおよび高校生の意識、双方における変化があると考えられる。

まず、前者からみていこう。高卒者の進路に影響を及ぼす社会的なシステムとしては、教育システムと経済システムの二つを考慮する必要がある。教育システムにおいては、十八歳人口の減少を受けて、以前と比較すると、大学教育が全体として「広き門」になった。

つたためにスムーズに就職できたことから、職業意識の欠如が見えなかつただけであるという意見である。

どちらの見方が正しいかはさておき、現在の高校生の職業意識は、実際のところ、どのようなものなのだろうか。職業意識といわれるものは、実は、進路意識や就職観、将来観など複数の意識から構成されている。これらの意識それぞれは、どのようなになっているのだろうか。また、高校生の意識と現実の行動との関係はどうなっているのだろうか。こうした研究関心にも

一方、経済システムに目を転じると、長引く経済不況による新規高卒労働市場の縮小と、労働市場における学歴代替の進展があげられる。簡単にいえば、この十年間に高卒で就職することはきわめて難しくなった。こうした教育システムと経済システムの変化の結果、大学等進学率が大幅に上昇し、同時に専門学校進学率も上昇したのである。

他方、高校生の意識も大きく変化したといわれている。その典型は、フリーターやニートの増加に関する議論にみられる。やりたいことが見つからない、希望の会社や職種でなければ就職したくない、あるいは単に働きたくないなどの理由から現状に足踏みしてしまい、進路を選択して一人前の社会人になる準備がなかなかできない高校生が増えているという見方である。ただし、これについては異論もある。かつての高校生も明確な職業意識をもっていたわけではない。けれども、経済が順調だ

とつぎ、私たちは二〇〇四年三月に高校を卒業した七五六二人を対象とした調査を行った。現在、追跡調査も継続しているが、ここでは、高校卒業時に実施した調査データをもとに、高校生の職業意識をみていくことにしたい。

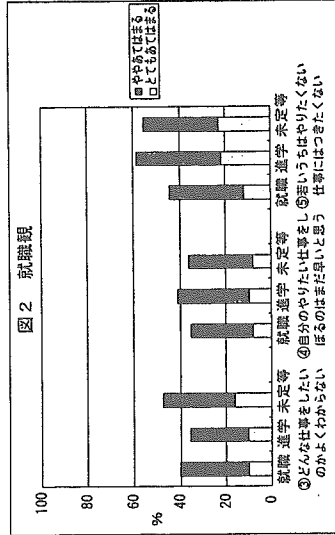
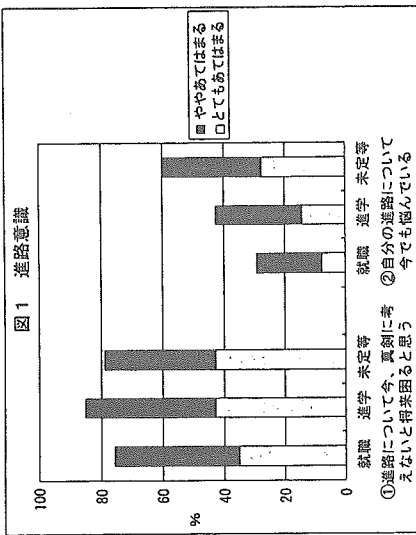
二 進路によって異なる職業意識——目標のある「進学」、迷っている「未定」、中途半端な「就職」

最初に、大まかな回答者の特徴を確認しておくことにしよう。

出身学科は、普通科七〇%、商業科(商業系学科)八%、工業科(工業系学科)一一%、総合学科八%、その他三%となっている。性別については、男子四九%、女子五一%である。調査時点で卒業後に予定されていた進路は、四年制大学(進学先決定済)二二%、四年制大学(進学先未決定)二二%、正社員(内定あり)一九%、専門学校(進学先決定済)一七%、その他二二%となっている。このデータから、まず、高校卒業生の進路意識・就職観・将来観をみていくことにしたい。

進路意識としては次の二つの質問に対する回答をもちいる(図1参照)。

① 進路について今、真剣に考えないと



将来困ると思う

- ② 自分の進路について今でも悩んでいる

就職観については次の三つの質問に対する回答をみていく(図2参照)。

- ③ どんな仕事をしたいのかよくわからない
- ④ 自分のやりたい仕事をしぼるのはまだ早いと思う
- ⑤ 若いうちはやりたくない仕事にはつきたくない

将来観については次の二つの質問についてみていく(図3参照)。

- ⑥ 将来よりも今の生活を楽しまたいと思う
- ⑦ 自分には十年後の目標がある

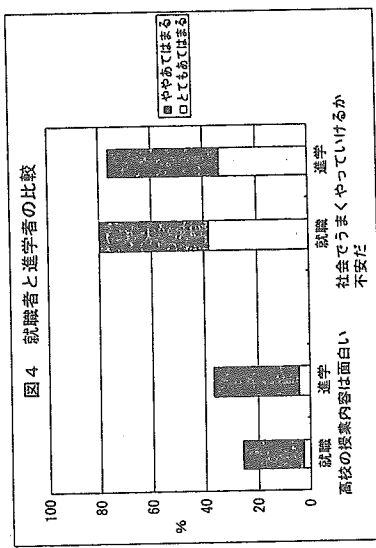
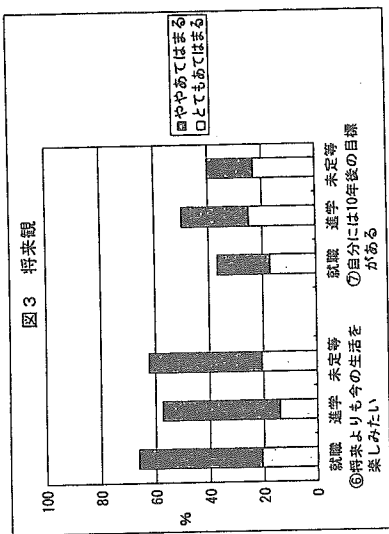
図には、それぞれの質問に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した比率を進路別に示してある。進路について、調査では、就職および進学先の決定/未決定の別も含めて詳しく尋ねているが、煩雑になりすぎるので、「就職」「進学(進学先未決定を含む)」「未定等」の三つに分類した。それぞれの構成比は、一八・七%、七一・〇%、一〇・三%である。

図1に示した進路意識からは、大多数が①「進路について真剣に考えないと将来困る」と考えているが、②「進路について今でも悩んでいる」かどうかは進路によって異なることがわかる。すでに就職先が内定している「就職」で最も低く、進路が

やや遠い未来に焦点をあてているといえよう。

三 高校から社会へ

高校卒業の時点で、高校生はこれまでの高校生活をどのように評価し、これからの生活をどのように展望しているだろうか。それは進路によって異なるのだろうか。この点についてみてみよう。ここでは「未定等」を除き、「就職」「進学」の二つの進路を比較する。高校生活の評価としては「高校の授業は面白い」



定まっていない「未定等」で最も高くなっている。ただし、「就職」で四〇%以上が「進路について今でも悩んでいる」と回答しているのは、不本意就職である可能性がうかがわれよう。

図2の就職観では、どの進路でも、⑤「若いうちはやりたくない仕事にはつきたくない」が高い点が特徴的である。そのなかでは「就職」が相対的に低くなっているといえよう。一方、「進学」では「やりたくない仕事にはつきたくない」、④「やりたい仕事をしぼるのはまだ早い」の二つが高い一方で、③「どんな仕事をしたいのかよくわからない」は低いことから、やりたいこと(＝目標)があつて進学を目標す傾向にあると考えられる。

それに対して「未定等」では、「進学」と同様に「やりたくない仕事にはつきたくない」「やりたい仕事をしぼるのはまだ早い」が高いが、「どんな仕事をしたいのかよくわからない」も高く、迷いのなかにあることがうかがわれる。傾向が明確でないのが「就職」である。「やりたくない仕事にはつきたくない」は、やや低くなつてはいるものの、「どんな仕事をしたいのかよくわからない」「やりたい仕事をしぼるのはまだ早い」では「未定等」と似た傾向を示している。自分のしたい仕事がよくわからないまま、一種の諦めから就職先を決定しているのかもしれない。

図3に示した将来観からは、高校生において未来志向よりも現在志向が強いことが明らかである。そのなかでは「進学」が、

に対する回答を、これからの生活展望については「社会でうまくやっけていけないか不安だ」に対する回答をもちいる。

図4からわかるように、「高校の授業内容は面白い」は、明らかに「進学」よりも「就職」で低くなっている。一方、「社会でうまくやっけていけないか不安だ」については、どちらの進路でも高い比率を示しているが、比較すると「就職」のほうが高い。これをまとめると、「進学」と比較して、「就職」では高校生活の評価が低く、かつ社会に出ることへの不安も強いということになる。

高校の授業も面白くなかつたし、これ以上、勉強する気にもなれない。かといって、就職して社会に出るのがうれしいかといえ、うれしいというよりも不安のほうが強い。どんな仕事かしたいのかもわからないまま「就職する」をゴールとして目指し、やりたくない仕事でも就職できたのだからよしとしなければならない。近年の高卒就職者の心情は、こうしたところにあるのではないだろうか。

高卒就職者の離職率の高さが問題視され、高校生の職業意識を育成することが重要であるとされているが、迎え入れる社会の側でも、その不安を軽減する仕組みが必要なら

のではないだろうか。

四 フリーターをどうみているか

最後に、高校生がフリーターをどのようにみているかを概観しておくことにしよう。今回の調査では、卒業後の進路がフリーターであるとした比率は二%にすぎない。けれども、進学もせず正社員として就職もせず、結果的にアルバイトやパートで生活しているフリーターが増加しているという現実、彼ら／彼女らも認識している。

図5に示したように、進路を問わず、大多数が「たれでもフリーターになるかもしれない」と考えている。図では省略しているが、「働き口が減っているのでかたない」に対しても七〇%近くが「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答しており、現在の雇用状況をかなり正確に把握していることがうかがえる。

ただし、その状況を全面的に受け入れているわけではない。「安定した仕事につくこと」を「とても大切にしている」は五二・一%、「少し大切にしている」は三五・七%で、安定した仕事は高校生にとっても非常に重要になっている。そうであるとするれば、現在の状況は、高校生にとって自分自身のこととしては受け入れがたいものであろう。それだけに「たれでもフリーターになるかもしれない」という認識がもたらす危機感、より深いものになるだろう。

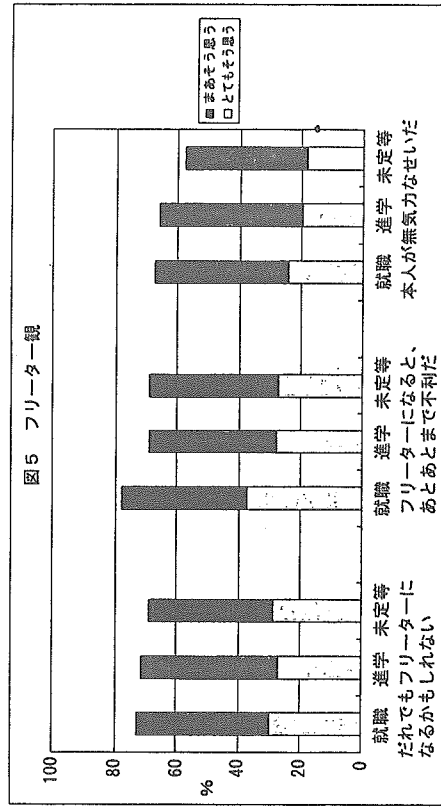
危機感を最も強く感じているのは「就職」である。「フリーターになると、あとあとまで不利だ」とする比率は、三つの進路のうちで最も高い。だからこそ、不安を感じながらも就職を選んだといえる。

雇用状況の厳しさは認識しているものの、高校生は、フリーターになってしまった本人にも責任があると考えている。「本人が無気力なせいだ」とする比率は、「就職」「進学」では六〇%を超えている。進路が決まっていない「未定等」ではやや低い。それでも半数以上が本人の気力のなさを感じている。このことを考えると、さきふれた高校生の危機感、自分がフリーターという状態になることだけでなく、そこに至る過程で気力を失っていくことに対しても向けられているのかもしれない。

五 まとめにかえて

以上、みてきたように、高校生の職業観の特徴は、不安と危機感にある。全体的にみれば、将来について考えていないのは少数派であり、大多数は問題意識をもって真剣に考えているといえよう。

年長の世代からみれば、「やりたくない仕事にはつきたくない」のはぜひたくであるが、豊かな社会に育った高校生にとっては譲れない一線なのであろう。この一線を守るような、やりたい仕事を見つけたが、それが何であるかは自分でもよ



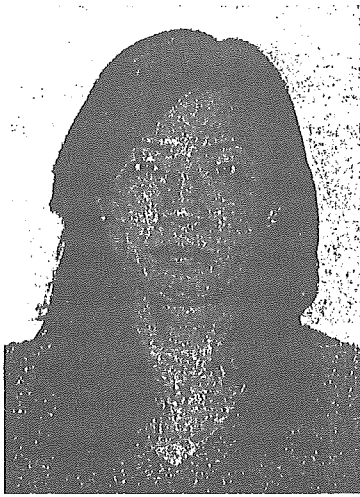
くわからない。本心としては、将来のために今を我慢するよりも、現在を楽しみたい。それが可能であるような仕事はめったにないことも、頭ではわかっているが、諦めきれないでいる。その一方で、厳しい就職状況も認識しており、危機感も強い。現在の自分の選択によって、その危機を回避できるという見通しをもてる高校生は多くない。こうした状態で社会に出て行くことを考えると、不安になるのも当然であろう。

高校の現場においては、異なった見方がなされているかもしれない。本稿ではふれなかったが、実は、生徒の分布は高校によって大きく偏っている。「進学」が大多数である高校、「就職」が過半数を占める高校、「未定等」が多い高校、それぞれの高校現場で高校生の職業観はまったく違ったものにみえてはすである。この問題に対して、どのように対応していくかが、今後の最大の課題のひとつである。

- (1) この調査は、全国から四県を選び、そこから無作為抽出された全日制高校一〇校の協力を得て、二〇〇四年一月から三月にかけて、東京大学社会科学研究所によって実施された。調査の詳細および分析結果については、厚生労働科学研究費補助会研究報告書『若年者の就業行動・意識と若年高師社会の関連に関する基礎研究』を参照されたい。
- (2) 厚生労働科学研究費補助会を受け、七五三人のうち進路調査への協力を承諾した住居記入者を対象とした進路調査を実施している。二〇〇四年十一月に郵送調査で実施され、二〇〇五年十一月にも、同様の調査が実施される予定である。

What Do Female High School Students Think of Their Futures? Educational Aspirations, Life Course Expectations and Gender Role Attitudes

Genji Keiko



Genji Keiko is a Research Resident at at the Institute of Social Science, the University of Tokyo
Institute of Social Science
University of Tokyo
Hongo 7-3-1
Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033
genji@rikkyo.ac.jp

The Expansion of Women's Higher Education and Women's Participation in the Labor Market

Does the attainment of higher education increase women's work opportunities? In 1969, Japanese women's rate of advancement to high school (79.5%) exceeded that of Japanese men (79.2%), and this trend has continued to the present. In 2004, the rate of advancement to high school reached nearly universal levels for both sexes (96.7% for women, 96.0% for men). At the level of higher education, however, there have been sex differences. Until recently, the increase in men's higher education was primarily at the university level, and the increase in women's higher education was at the junior college level. In 1996, however, women's rate of advancement to university exceeded that of junior college. Moreover, in recent years, there are increasing numbers of women going to *senmon gakkō* (specialized two-year training schools oriented towards the acquisition of vocational skills [Brinton & Lee, 2001]).

On the other hand, the rate of women's labor force participation shows a gentle upward trend until

1991, after which it shows a gentle downward trend. Furthermore, although the bottom of the M-shaped curve of female labor force participation by age group has risen, the M-shaped pattern is still clear, and this differs from Western industrialized countries. Although the rate of female labor force participation by education level shows that the participation rate of university-educated women is higher than that for other women, it is still lower than that of women in Western industrialized countries.

The Youth Labor Market

In recent years in Japan, it has become increasingly difficult for high school graduates to find employment, and the number of high school graduates with neither job nor postsecondary education has increased. The unemployment rate among young people is especially high, and the number of young people entering the labor market as non-regular workers has increased, reaching 28.3% for new male high school graduates and 38.6% for new female high school graduates.

Women's Educational Attainment and Occupational Attainment

Highly educated women have higher occupational aspirations, because a higher level of education mutes the belief in traditional gender roles (Amano, 1986). Therefore, the proportion of highly educated women who continue to work after marriage is high (Imada, 1985). At the same time, however, many highly educated married women choose to not participate in the labor force (Ministry of Labor, Japan, 1991). Thus, highly educated married women can be divided into two types, one type being those who work before and after marriage and the other being those who become full-time housewives after marriage (Higuchi, 1991). In the case of female high school students, those who disagree with traditional gender roles have higher educational aspirations than those who agree with them. Moreover, the students who plan to continue their work after marriage also show a higher rate of university advance-

ment (Kimura, 2004).

Educational Aspirations, Life Course Expectations and Gender Role Attitudes

What do young people think of their futures under the present circumstances? How do gender role attitudes contribute to female students' educational aspirations and life course expectations? How do educational aspirations contribute to female students' life course expectations? By examining the relation among educational aspirations, life course expectations and gender role attitudes, this paper explores these questions, based on data collected in a social survey on the lives of high school students conducted by the University of Tokyo's Institute of Social Science in 2004.

Regarding the educational aspirations of female students, 35.8% indicate that they wish to attend a university, 13.6% wish to attend a junior college, 23.3% wish to attend a *senmon gakkō*, and 20.9% plan to get a job. Thus, most indicate that want to get a higher education. Furthermore, almost half of the female students (49.6%) said that they planned to leave the labor force upon marriage or childbearing, and reenter the labor force when they no longer need to care for their children; 32.0% replied that they would continue working after marriage or childbearing; 10.4% said they would withdraw from the labor force altogether; and 8.0% answered that they have not yet decided. Finally, regarding gender role attitudes, it seems that the traditional gender role attitude, assuming men should be the primary breadwinners and women the primary caregivers, is weakening among female students, as 89.2% of female students disagreed with this attitude, and only 10.8% agreed.

For the relationship among educational aspirations, life course expectations and gender role attitudes, see the data below (Figures 1–3). First, Figure 1 shows educational aspirations by gender role attitude. Of the students who expect to attend a university, there is an 8 point difference between those who agree with the traditional gender role attitude (29.1%) and those who disagree with the traditional gender role attitude (36.8%). On the other hand, of the students who expect to get a job upon graduation from high school, there is a 10 point difference

between those who agree with the traditional gender role attitude (29.1%) and those who disagree with the traditional gender role attitude (19.9%). These results show that educational aspirations differ according to gender role attitude.

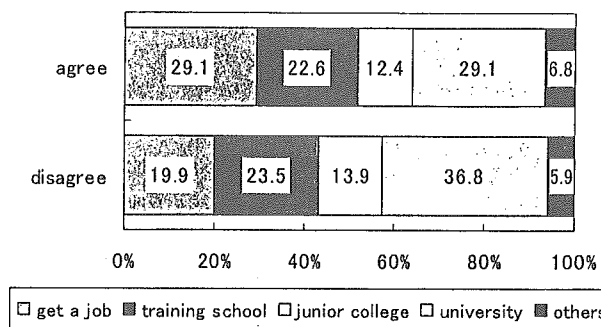


Figure 1. Female High School Students' Educational Aspirations by Gender Role Attitude. (agree = agree with traditional gender role attitude)

Second, Figure 2 shows life course expectations by gender role attitude. The proportion of students who think their career will be temporarily interrupted at the time of marriage or childbearing (yet intend to reenter after their children are older) is similar on both sides of the gender role attitude question. But 33.9% of the students who disagree with the traditional gender role attitude expect to continue working, in contrast to 18.0% of the students who agree with the traditional gender role attitude. And far fewer students who disagree with the traditional gender role attitude expect to retire from the labor force at the time of marriage or childbearing than students who agree with the attitude (8.8% compared to 23.7%). These results show that life course expectations are affected by gender role attitude.

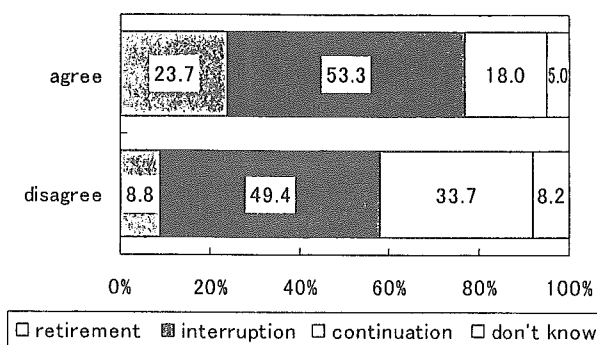


Figure 2. Female High School Students' Life Course Expectations by Gender Role Attitude. (agree = agree with traditional gender role attitude)

Third, Figure 3 shows life course expectations by educational aspiration. The students who expect to get a job soon after they graduate high school are by far the most likely to respond that they intend to retire from the labor force at the time of marriage or childbearing. Furthermore, many more students who intend to go to a university or *senmon gakkō*, compared with the other types, want to continue working. While junior college and *senmon gakkō* entail the same number of school years (two), this difference between junior college applicants and *senmon gakkō* applicants regarding life course expectations suggests that attending a university and attending a junior college hold different educational meanings, even though they are both said to be "higher education."

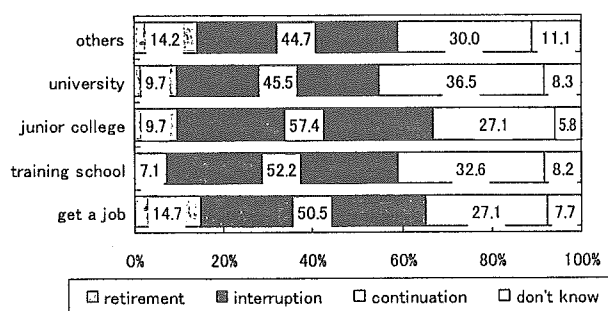


Figure 3. Female High School Students' Life Course Expectations by Educational Aspiration

These data were also analyzed by a multinomial logit model, which can deal with categorical variables as dependent variables, to explore the determinants of life course expectations (Table 1). The results show that holding the traditional gender role attitude has a significant effect on life course expectations, that is, a negative effect on a student's expectation of staying in her job, and a positive effect on a student's expectation of retiring from the labor force at the time of marriage or childbirth. Education affects life course expectations differently. Only edu-

cational aspirations of attending junior college or completing high school have a significant positive effect on job interruption.

Twenty years have passed since the Equal Employment Opportunity Law was established, but sex segregation in the labor market still exists. Moreover, there is substantial evidence that the occupational aspirations of young people are highly sex-typed, which reflects the sex segregation of the labor market. Despite the increase in highly educated women and the fact that many Japanese women do not agree with the traditional gender role attitude, almost half of Japanese female high school students expect that they will leave the labor force upon marriage or childbearing, and then reenter the labor force when they no longer need to care for their child, and gender role attitudes affect both their educational aspirations and life course expectations. In this connection, there remain considerable numbers of young men and women who hold to the traditional gender role attitude, and resign themselves to the duties in line with this attitude (Taga, 2005). Furthermore, some women have recently begun expressing a "*Shin Sengyō Shufu Shikō*" (an orientation to a new type of housewife), that is, they desire to share childcare with their husbands but to maintain the status of the "male-breadwinner" model, and to try to achieve self-realization through a hobby or odd job (Ministry of Health and Welfare, 1998). When the position (or status) of women in the labor market changes, will the link between women's education, especially at the university level, and their labor force participation change? A married woman's decision about her labor force participation is not only a reflection of her own gender attitude but also a reflection of the family's demands of her (Yu, 2001). Thus, we must reconsider women's labor force participation as not only an issue for women, but for men as well.

Table.1 Determinants of Life Course Expectations

	Life Course Expectations (base category=don't know)		
	retirement	Interruption	continuation
gender role attitude	0.73 **	0.12	-0.42 **
grade in school	0.03	0.10	0.13 *
school with a high ratio of students who continue to the next stage of education	0.00	0.02	0.15
not a school with a high ratio of students who continue to the next stage of education	—	—	—
success in her job	-0.08	0.38 **	0.71 **
talks with parents about higher education	0.17	0.31 *	0.31 *
talks with parents about job	0.10	0.07	0.06
get a job	0.49	0.68 *	0.46
training school	-0.47	0.33	0.15
junior college	0.42	0.86 **	0.45
university	0.03	0.16	0.19
others	—	—	—
intercept	-1.67 **	-0.73	-1.09 *

Cox & Snell=0.089, Nagelkerke=0.010, McFadden=0.041

** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

References

- Amano Masako, ed., 1986. *Joshi Kōtō Kyōiku no Shiza* (The Viewpoint of Higher Education for Girls), Tokyo: Kakiuchi Shuppansha.
- Brinton, Mary C. & Lee, Sunhwa. 2001. "Women's Education and the Labor Market in Japan and South Korea," in Brinton, Mary C. (ed.), *Women's Working Lives in East Asia*, Stanford: Stanford University Press, pp. 125-150.
- Imada Sachiko. 1985. "Josei no Shokugyō Keireki to Kyōiku Tassei" (Women's Occupational Career and Educational Attainment), in *Kyōiku Shakaigaku Kenkyō* (The Journal of Educational Sociology), 40: pp. 50-64.
- Kimura Kunihiro 2005. "'Josei ni totteno Gakureki no Imi' Saikō: Kyōiku, Shugyō, to Seibetsu Yakuvvari Ishiki no Kanren no Jikeiretsutekihikaku" (A Reexamination of the Meanings of Educational Attainment for Women: A Comparative Analysis of the Relation between Education, Employment, and Gender Role Attitudes) in Katase Kazuo, ed., *Kyōiku to Shakai ni Taisuru Kōkōsei no Ishiki: Dai 5ji Hōkoku-sho* (Thoughts of High School Students and Their Parents: Report on the 5th Survey), *Tōhoku Daigaku Kyōiku Bunka Kenkyūkai* (Research Group for Education and Culture, Tohoku University), pp. 57-70.
- Ministry of Labor, Japan. 1991. *Rōdō Hakusho* (White Paper of Labor).
- Ministry of Health and Welfare, Japan. 1998. *Kōsei Hakusho* (White Paper of Health and Welfare).
- Taga Futoshi. 2005. "Posuto Seinen-ki to Jendā" (Post-adolescence and Gender), in *Kyōiku Shakaigaku Kenkyū* (The Journal of Educational Sociology), 76: pp. 59-75.
- Yu, Wei-hsin. 2001. "Family Demands, Gender Attitudes, and Married Women's Labor Force Participation: Comparing Japan and Taiwan," in Brinton, Mary C. (ed.), *Women's Working Lives in East Asia*, Stanford: Stanford University Press, pp. 70-95.

付 録

高校卒業後の生活と意識に関するアンケート

＜調査票A：何らかの職業についている（学生アルバイトを除く）方用＞（クリーム色）

「高校卒業後の生活と意識に関する調査」研究会

※ 現在、短大・専門学校・職業訓練校のいずれかに通っている方は調査票B（薄ブルー色）、4年制大学に通学している方は調査票C（白色）、通学も就労もしていない方（浪人も含む）は調査票D（グリーン色）にご記入ください。

まず、あなたの状況についておうかがいします。

問 1. あなたの現在の状況は、次のどれにあたりますか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

- | | |
|---|--|
| 1 | 正社員として働いている |
| 2 | 公務員（臨時採用を除く）として働いている |
| 3 | 自営業主として働いている |
| 4 | 家族従業者として働いている |
| 5 | 非正社員（臨時雇用、パート、アルバイト、登録型派遣社員など）として働いている |
| 6 | その他（具体的に： _____） |

問 2. あなたが問 1. でお答えになった状況は、高校を卒業してからずっと同じですか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 同じ → 2 ページ問 3. へ |
| 2 | 違う |
| 3 | 違う時期もあった → 付問 2-1 へ |

付問 2-1. 【問 2. で2、3と答えた方におうかがいします。】あなたの昨年（2004年）10月の状況は、次のどれにあたりますか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

- | | | | |
|----|--------------------------|---|---------------|
| 1 | 学生ではなく、正社員として働いていた | } | → 2 ページ問 3. へ |
| 2 | 学生ではなく、アルバイトやパートで働いていた | | |
| 3 | 4年制大学に在学していた | } | → 付問 2-2. へ |
| 4 | 短期大学に在学していた | | |
| 5 | 専門・専修学校に在学していた | | |
| 6 | 職業訓練校に在学していた | | |
| 7 | 進学を目指して浪人していた（予備校在学を含む） | } | → 2 ページ問 3. へ |
| 8 | 無職で仕事をさがしていた | | |
| 9 | 家にいた（家事手伝いを含む）・何もしていなかった | | |
| 10 | その他（具体的に： _____） | | |

付問 2-2. 【付問 2-1. で3～7と答えた方におうかがいします。】あなたがその学校をやめた時期は、いつごろですか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

〔記入例〕 5月中旬にやめた場合

	2004年		2005年									
5月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下

付問 2-3. あなたがその学校をやめた理由として、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | | |
|---|---|----|--------------------------------|
| 1 | 授業のレベルが合わなかった | 7 | 健康上の理由 |
| 2 | 授業内容に興味をもてなかった | 8 | 経済上の理由 |
| 3 | 先生や友人との人間関係がうまくいかなかった | 9 | 家庭の事情 |
| 4 | 卒業後の進路が心配になった | 10 | なんとなく |
| 5 | 校風が合わなかった | 11 | その他（具体的に： ） |
| 6 | 他にやりたいことができた（具体的に： ） | | |

問 3. あなたが現在ついている仕事についておうかがいします。(a)には、数字を記入し、(b)～(d)には、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。(e)には、具体的な仕事の内容をお答えください。

(a) その仕事を始めたのはいつですか（就職時期）。

(西暦) 年 月

(b) 業種

- | | | | |
|---|-----------------------|----|--------------------------------|
| 1 | 農林漁業・鉱業 | 9 | 金融・保険業 |
| 2 | 建設業 | 10 | 不動産業 |
| 3 | 機械器具製造業（電気機器・自動車製造など） | 11 | 個人サービス業（ホテル・理美容など） |
| 4 | その他の製造業 | 12 | 情報サービス・調査・広告などのサービス業 |
| 5 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 13 | 医療・保健・福祉などのサービス業 |
| 6 | 運輸業 | 14 | その他のサービス業（リース、保安、業務請負業を含む） |
| 7 | 通信業 | 15 | 公務員 |
| 8 | 卸売・小売業、飲食店 | 16 | その他（具体的に： ） |

(c) 企業規模（本社・支社などすべて含めた従業員数、パート・アルバイトは除く）

- | | | | | | | | |
|---|---------|---|-----------|---|-----------|---|-----|
| 1 | 29 人以下 | 3 | 100～299 人 | 5 | 500～999 人 | 7 | 公務員 |
| 2 | 30～99 人 | 4 | 300～499 人 | 6 | 1000 人以上 | | |

(d) 職種

- | | | | |
|---|-----------------------|----|--------------------------------|
| 1 | 受付、経理、一般事務などの事務職 | 8 | 自動車整備・組立作業・機械のオペレーターなどの技能職 |
| 2 | 販売、外交、セールスなどの販売職 | 9 | SE・プログラマーなどの情報関係の技術職 |
| 3 | 大工・左官、建具師などの職人的仕事 | 10 | 設計や工程管理などを行う技術職 |
| 4 | 土木工事などの現場作業 | 11 | 理・美容師、調理師などのサービス職 |
| 5 | 介護や看護など福祉・医療関係の仕事 | 12 | ウェ이터・ウェイトレス、ホテルマンなどのサービス職 |
| 6 | 運輸（トラック運転手、配達員など） | 13 | その他（具体的に： ） |
| 7 | 保安（守衛や警備、消防、警察、自衛官など） | | |

(e) 具体的な仕事の内容

【記入例】大手スーパー（〇〇社）での夜間レジ業務のアルバイト

問 4. 現在の仕事に応募した方法として、あてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

1	学校の推薦や紹介で	6	インターネットや携帯電話の求人サイトを利用して
2	公務員の一般公募で	7	求人ポスターをみて
3	家族・知人・先輩の紹介で	8	アルバイト先だった
4	就職情報誌や新聞広告でみて	9	職業安定所（ハローワーク）で求人を見て
5	新聞などのおりこみ広告をみて	10	その他（具体的に： _____）

問 5. 現在の仕事について、次のようなことはあてはまりますか。 A～G のそれぞれについて、あてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

	とても あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	わからない
A. 希望していた職種である ……………	1	2	3	4	5
B. 有名な会社である ……………	1	2	3	4	5
C. 給料がよい ……………	1	2	3	4	5
D. 残業が少ない、休みが多い ……………	1	2	3	4	5
E. 高校で学んだことが生かせる ……………	1	2	3	4	5
F. 先輩が仕事についてよく教えてくれる ……………	1	2	3	4	5
G. 研修機会に恵まれている ……………	1	2	3	4	5

問 6. 以下のような、あなたが高校時代に得たものや行った活動は、今のあなたの職業にどれくらい役立っていますか。 A～L のそれぞれについて、あてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

	とても 役立って いる	まあ 役立って いる	どちらとも いえない	あまり 役立って いない	まったく 役立って いない
A. 仕事に直接関係する技能・実習科目の授業 ……………	1	2	3	4	5
B. 国語・数学・英語などの一般の教科の授業 ……………	1	2	3	4	5
C. 進路指導 ……………	1	2	3	4	5
D. 高校でできた友人関係 ……………	1	2	3	4	5
E. 生徒会活動 ……………	1	2	3	4	5
F. 部活動・クラブ活動 ……………	1	2	3	4	5
G. 学校の提供した職場に関する情報 ……………	1	2	3	4	5
H. 文化祭や体育祭などの行事運営 ……………	1	2	3	4	5
I. 生活指導 ……………	1	2	3	4	5
J. 仕事に関するガイダンス ……………	1	2	3	4	5
K. アルバイト ……………	1	2	3	4	5
L. ボランティアや地域活動 ……………	1	2	3	4	5

問 7. 現在の仕事についてから、通常の業務とは別に、講習や実習などの教育訓練を受けたことがありますか。

1 受けたことがある 2 受けたことがない → 問 8. へ

↓
付問 7-1 へ

(問 7. で 1 と答えた方は、最近受けたものについてお答えください)

付問 7-1. その期間はどれくらいでしたか。あてはまる番号 1つに○をつけてください。

1 3日間 2 4～6日間 3 1週間～1ヶ月未満 4 1ヶ月以上

付問 7-2. その内容はどのようなものでしたか。あてはまる番号 すべてに○をつけてください。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1 働くことの大切さ、社会人としての心構え | <input type="checkbox"/> 8 会社の概要 |
| <input type="checkbox"/> 2 接客の仕方、電話のかけ方 | <input type="checkbox"/> 9 特定資格取得のための講習 |
| <input type="checkbox"/> 3 経理、簿記 | <input type="checkbox"/> 10 新技術、設備導入のための講習 |
| <input type="checkbox"/> 4 文書の書き方 | <input type="checkbox"/> 11 昇進にあたっての講習 |
| <input type="checkbox"/> 5 情報処理、パソコン | <input type="checkbox"/> 12 外国語 |
| <input type="checkbox"/> 6 取り扱い商品に関する説明 | <input type="checkbox"/> 13 その他(具体的に: _____) |
| <input type="checkbox"/> 7 製造工程、設備、機械についての説明 | |

問 8. 現在の職場で、次の点についてどの程度満足していますか。A～Iのそれぞれについて、あてはまる番号 1つに○をつけてください。

	とても満足	やや満足	やや不満	不満
A. 労働条件(給料) ……………	1	2	3	4
B. 労働条件(労働時間) ……………	1	2	3	4
C. 労働条件(休暇) ……………	1	2	3	4
D. 昇進や昇格の機会 ……………	1	2	3	4
E. 技術や知識習得の機会 ……………	1	2	3	4
F. 上司との人間関係 ……………	1	2	3	4
G. 同僚との人間関係 ……………	1	2	3	4
H. 会社の事業の内容 ……………	1	2	3	4
I. あなたの仕事の内容 ……………	1	2	3	4

問 9. あなたは、ご自身の進路選択について、全体としてどのくらい満足していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

とても満足	やや満足	やや不満	不満
1	2	3	4

問 10. あなたは現在、どのように暮らしていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|---|-------|---|------------------|
| 1 | 親と同居 | 3 | 一人暮らし |
| 2 | 勤め先の寮 | 4 | その他（具体的に： _____） |

〔記入例：友人とアパートで共同生活〕

問 11. あなたは現在、生活費をどのようにまかなっていますか。あてはまる比率（％）を例にならって、合計が100%になるように記入してください。

	親	貯金や アルバイト	定職収入	その他
〔記入例〕 定職収入で90%、親から10%まかなっている場合	10 %	0 %	90 %	0 %
生活費	%	%	%	%

問 12. あなたが仕事（副業を含む）から得る手取り収入は、1ヶ月平均いくらぐらいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|-----------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | 5万円未満 | 4 | 12～14万円未満 | 7 | 18～20万円未満 |
| 2 | 5～10万円未満 | 5 | 14～16万円未満 | 8 | 20～22万円未満 |
| 3 | 10～12万円未満 | 6 | 16～18万円未満 | 9 | 22万円以上 |

問 13. あなたには日常生活において、A～Iのそれぞれについて、困ったり悩んだりしたことがどれほどありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	よくある	少しある	ない
A. 友だちとの人間関係について……………	1	2	3
B. 家族との人間関係について……………	1	2	3
C. 職場やアルバイト先での人間関係について……………	1	2	3
D. 暮らしむき（収入）について……………	1	2	3
E. 時間のゆとりについて……………	1	2	3
F. 健康について……………	1	2	3
G. 恋愛について……………	1	2	3
H. 仕事について……………	1	2	3
I. 将来について……………	1	2	3

あなたのご家族についておうかがいします。

問 14. あなたが高校3年生のときの家族構成について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。また兄弟姉妹（E～H）については、（ ）内に人数も記入してください。

	いる			合計人数 (同居も別居も含む)	いない			合計人数 (同居も別居も含む)
	同居	別居	別居		同居	別居	別居	
A. 父または養父……………	1	2	3		1	2	3	
B. 母または養母……………	1	2	3		1	2	3	
C. 祖父……………	1	2	3	()人	1	2	3	(1)人
D. 祖母……………	1	2	3	()人	1	2	3	(2)人
E. 兄……………	1	2	3	()人	1	2	3	()人
F. 弟……………	1	2	3	()人	1	2	3	()人
G. 姉……………	1	2	3	()人	1	2	3	()人
H. 妹……………	1	2	3	()人	1	2	3	()人

問 15. あなたが高校3年生のときのご家庭の生活状況はいかがでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

豊か	やや豊か	ふつう	あまり豊か ではない	豊かでは ない	わからない
1	2	3	4	5	6

あなた自身の考え方についておうかがいします。

問 16. 最近、正社員として就職せずにアルバイトやパートで生活する人（フリーター）や、進学も就職も職業訓練もしない人（ニート）や、結婚せずにずっと親と同居する人やが増えていますが、そうした生き方についてどう思いますか。A～Vのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
【アルバイトやパートで生活】				
A. 働き口が減っているのしかたない……………	1	2	3	4
B. 自分がやりたいことを探すためにはよいことだ……………	1	2	3	4
C. 本人が無気力なせいだ……………	1	2	3	4
D. 高校の進路指導が不十分なせいだ……………	1	2	3	4
E. そのうちにきちんとした仕事につく人が多いのでたいした問題ではない……………	1	2	3	4
F. 夢を実現するためにフリーターをしている人はかっこいい……………	1	2	3	4
G. だれでもフリーターになるかもしれない……………	1	2	3	4
H. フリーターになると、あとあとまで不利だ……………	1	2	3	4
I. フリーターもりっぱな1つの働き方だ……………	1	2	3	4
【ニート】				
J. 働き口が減っているのしかたない……………	1	2	3	4
K. 必要がなければ、あえて働かなくてもよい……………	1	2	3	4
L. 納得できる生き方をみつけるためには、時間が必要な場合もある……………	1	2	3	4
M. やりたいことをみつけるためには、何かしたほうがよい……………	1	2	3	4
N. 親があまやかしているからだ……………	1	2	3	4
O. 本人が無気力なせいだ……………	1	2	3	4
P. 人とうまく接することができない人だ……………	1	2	3	4
【親と同居】				
Q. 家事を親にしてもらえるので楽だ……………	1	2	3	4
R. 親元を離れて早く自立したほうがよい……………	1	2	3	4
S. 子どもとの同居を親もよろこぶのでよいことだ……………	1	2	3	4
T. 1人で暮らすだけの収入がないならしかたない……………	1	2	3	4
U. 生活費がうくので、好きなことに使えるお金が増えて得だ……………	1	2	3	4
V. 親と同居していると、なかなか結婚しにくくなる……………	1	2	3	4

問 17. あなたにとって、人の役に立つとはどのようなことですか。A～Fのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。 付問 19-2 へ

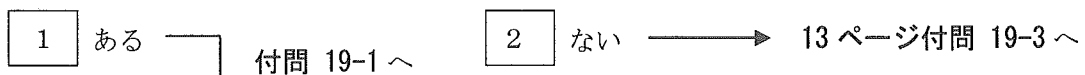
	とても あてはまる	まあ あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
A. 家族や友人など、身近な人々と助け合って生活すること……………	1	2	3	4
B. 見知らぬ人でも、困っていれば自分にできることをすること……………	1	2	3	4
C. 自分に与えられた仕事や役割を、責任をもって果たすこと……………	1	2	3	4
D. 社会的評価の高い仕事につくこと……………	1	2	3	4
E. 人々の生活改善に直接役立つ仕事につくこと (社会福祉・環境・保安・教育・医療関係の仕事など)……………	1	2	3	4
F. ボランティア活動や地域活動に参加すること……………	1	2	3	4

問 18. あなたはこの1年間に、次のような社会活動に参加したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 政治関係の活動（後援会活動、選挙運動など） |
| 2 | ボランティア関係の活動（災害支援、国際協力、共同募金、献血など） |
| 3 | 市民・消費者運動（環境保全、地域自治など） |
| 4 | 宗教関係の活動（社会奉仕など） |
| 5 | 青少年育成関係の活動（スカウト、少年野球、少年サッカーなど） |
| 6 | 趣味に関する活動（楽団、劇団、合唱団、山岳会など） |
| 7 | その他（具体的に： _____) |

国民年金の制度についておうかがいします。

問 19. あなたは、国民年金という言葉聞いたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。



付問 19-1. 【問 19. で1と答えた方におうかがいします。】では、国民年金についてどの程度ご存知ですか。A～Dのそれぞれの事गरらについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らない
A. 20歳以上の全ての人は加入する義務があること……………	1	2
B. 毎月徴収される保険料額（現在の額）……………	1	2
C. 学生には免除制度があること……………	1	2
D. 年金を受給できる年齢……………	1	2

付問 19-2. あなたは将来、国民年金保険料を払うつもりですか、あるいは、現在保険料を払っていますか。あてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

- | | | |
|---|---------------------------|------------------|
| 1 | 保険料を払うつもり、あるいは現在払っている | → 9 ページ付問 19-3 へ |
| 2 | 保険料を払うつもりはない、あるいは現在払っていない | ↓ 付問 19-3 へ |

付問 19-3. 【付問 19-2 で 2 と答えた方におうかがいします。】 どうして払うつもりがないのですか。あるいは払っていないのですか。あてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

- | | | | |
|---|---------------|---|------------------|
| 1 | 年金が信用できないから | 4 | お金がないから |
| 2 | 政府を信用できないから | 5 | その他（具体的に： _____） |
| 3 | 自分で貯蓄した方がよいから | | |

問 20. あなたの老後の生活を考えてみてください。あなたの考えは、次のどれにもっとも近いですか。あてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1 | 老後の生活も自分で責任を負い、年金に頼るべきではない |
| 2 | 老後の生活についても基本的に自分で責任を負うが、足りない分は年金で補えばよい。 |
| 3 | 老後の生活は、自分の子どもなどの家族が面倒をみるべきであり、年金に頼る必要はない |
| 4 | 老後の生活は、基本的に自分の子どもなどの家族が面倒を見るべきであるが、足りない分は年金で補えばよい |
| 5 | 老後は国からの年金に頼って生活したい |
| 6 | わからない |

問 21. これからの少子高齢化社会では、福祉へのニーズが高まります。そこで誰が中心となって負担をになうべきだと思いますか。もっともあてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 個人や家族が負担すべきだ |
| 2 | どちらかといえば個人や家族が負担すべきだ |
| 3 | どちらかといえば政府が負担すべきだ |
| 4 | 政府が負担すべきだ |
| 5 | わからない |

あなたの将来の生活についておうかがいします。

問 22. あなたには、将来の生活について、次のような不安がどのくらいありますか。A～Dのそれぞれについて、あてはまる番号 1 つに ○ をつけてください。

	とてもある	少しある	あまりない	まったくない
A. 職につけなかったり、職を失うのではないかと、という不安 …	1	2	3	4
B. 生活するのに十分な収入が得られなくなるのではないかと、という不安 …	1	2	3	4
C. 家族の介護に追われるようになるのではないかと、という不安 …	1	2	3	4
D. 突然の事故や病気に見舞われるのではないかと、という不安 …	1	2	3	4

問 23. あなたは子育てにどのような印象をもっていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

楽しい	どちらかといえ ば楽しい	どちらとも いえ	どちらかといえ ば苦しい	苦しい
1	2	3	4	5

問 24. あなたは、将来、自分の子どもがほしいと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。また、ほしいと思う場合、何人ほしいと思いますか。()内に人数を記入してください。

1	ほしい	→ () 人	→ 問 25. へ
2	ほしくない	↓	付問 24-1 へ

付問 24-1. 【問 24. で2と答えた方におうかがいします。】子どもをほしくないと思うのはどうしてですか。もっともよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|----|------------------------|
| 1 | 子どもを育てるのは経済的に大変そうだから |
| 2 | 子どもを育てるのはストレスがたまりそうだから |
| 3 | 自分の自由な時間をとられるのが嫌だから |
| 4 | 夫婦だけで暮らしたいから |
| 5 | 他の家族の面倒を見なければならないから |
| 6 | 子どもが嫌いだから |
| 7 | 子どもを育てる環境に不安があるから |
| 8 | 子どもを育てる自信がないから |
| 9 | 仕事に専念したいから |
| 10 | その他(具体的に:) |

問 25. 女性の仕事と結婚に関して、あなたはどのようにすることがよいと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1 | 仕事をせず、結婚して家庭に入る |
| 2 | 結婚したら、もう仕事はしない |
| 3 | 子どもができたら、もう仕事はしない |
| 4 | 子どもができたらいったん仕事をやめ、子どもに手がかからなくなったら仕事をはじめ |
| 5 | 結婚して子どもができて、仕事をつづける |
| 6 | 結婚しても子どもをつくらず、仕事をつづける |
| 7 | 結婚しないで、仕事をつづける |
| 8 | その他(具体的に:) |
| 9 | わからない |

問 26. 家族のなかでの男性の役割に関する次のような意見について、どう思いますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わ ない	まったく そう思わ ない
A. 男性が家族を養うべきだ	1	2	3	4
B. 安定した仕事についていない男性は、結婚すべきではない	1	2	3	4
C. 家事や育児は女性にまかせて、男性は仕事に専念すべきだ	1	2	3	4
D. 男性が家庭に入り、家事や育児に専念してもよい	1	2	3	4
E. 父親が子育てにかかわることは大切なことだ	1	2	3	4

問 27. あなたは30歳ごろになったときに、どのような働き方をしたいと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 正社員として働きたい
- 2 自分で事業を起こしたい
- 3 親の家業をつぎたい
- 4 独立して一人で仕事をしたい
- 5 アルバイトやパートで働きたい

- 6 専業主婦・主夫になりたい
- 7 その他（具体的に：）
- 8 わからない

1～5の方は付問 27-1 へ

6～8の方は12 ページ問 28. へ

付問 27-1. 【問 27. で1～5と答えた方におうかがいします。】あなたは30歳ごろになったときに、どのような職業についていたと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

農業・林業・漁業

専門・技術的職業

- 1 農・林・水産に関わる職業
(副業的な働き方や農林水産物加工は除く)
- 生産工程に関わる仕事・技能的職業
- 2 工場などの生産現場での技能職
- 3 自動車整備士、電気工事作業員など
- 4 大工・左官・配管工など建築関係の技能職

- 20 医師
- 21 薬剤師、栄養士、看護師（士）、臨床検査技師
- 22 ケースワーカーやカウンセラーなど福祉に関わる職業
- 23 弁護士、検事、裁判官など
- 24 税理士、会計士など
- 25 外交官
- 26 科学者、研究者、大学の教授
- 27 小学校、中学校、高校の教師
- 28 幼稚園の先生や保育士
- 29 S E、コンピュータのプログラマー
- 30 機械・電気や建築・土木関係の技術者
- 31 記者、ジャーナリスト、編集者
- 32 テレビ・ラジオなど放送に関わる職業
- 33 デザイナー、スタイリスト、カメラマン
- 34 小説家、作家、マンガ家
- 35 芸術家
- 36 歌手やタレント
- 37 スポーツ選手

販売的職業

- 5 デパート店員やセールスマンなどの販売員
- 6 小売店・スーパー・コンビニなどの店員
- 7 喫茶店、飲食店、ブティックなどの店主

事務的職業

- 8 営業マン、銀行員、商社員、OLなど
- 9 公務員

管理的職業

- 10 会社の重役、部長、課長など
- 11 企業の経営者
- 12 政治家

サービスの職業

- 13 理容師、美容師など
- 14 コック、料理人など
- 15 客室乗務員、ウェイトレス、ホテルマンなど

保安的職業

- 16 警察官、消防官、自衛官
- 17 警備員

運輸・通信的職業

- 18 トラック・電車の運転手、パイロットなど
- 19 通信士、郵便配達など

- 38 考えていない
- 39 その他（具体的に：）